

インフォメーション

# 全農による営農実証支援の取り組み

## ～JAあわじ島の最先端園芸施設に対する トマト栽培技術・施設運営の支援～

JAあわじ島は、将来の農業モデルとなるオランダ型最先端園芸施設を設置し、①オランダ技術の有効性検証②新規就農者や後継者の育成と施設園芸の普及による管内農業の維持発展③環境制御システムの導入による品質・収量向上技術の検証④所得向上の技術の実証と経営モデルの確立などを目的として取り組んでいる。

一方、全農は、高度園芸施設の普及・推進のため、平成26年から栃木県の「ゆめファーム全農」でトマトの営農実証に取り組み、29年4月に高知県に「ゆめファーム全農NEXTこうち」を設立し、8月からなすの営農実証を開始した。これらの取り組みで、高度園芸施設における設置→栽培→収穫・出荷までのノウハウを蓄積し、「ゆ

めファーム全農」栽培モデルのパッケージ化、実証で得た技術を活用した各地の営農支援を進めている。そこで今号では、この一環としてJAあわじ島の最先端園芸施設に対し、全農が実施した栽培技術・施設運営支援の取り組みを紹介する。

### 建設・運営の準備段階から支援

JAあわじ島は、最先端園芸施設でのトマト栽培の経験がなく、栽培管理のノウハウが乏しかったため、全農は準備段階からさまざまな支援を行った。支援内容は、①事務所機能の充実および栽培開始に必要な備品リストの提示②養液レシピおよび作製基礎講習③苗納品前、納品

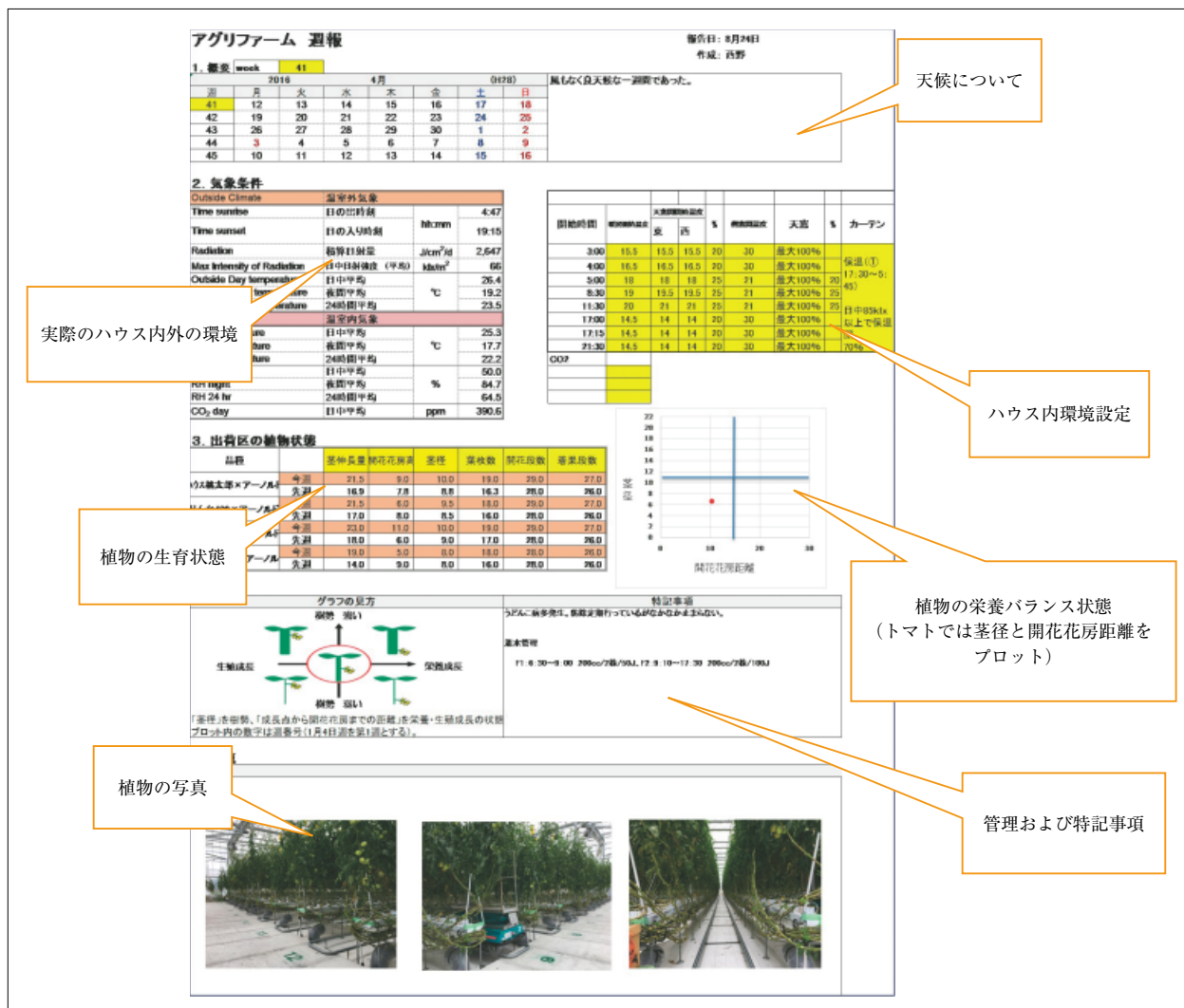


図-1 週次報告書(例)

全農が週次報告書のフォーマットを提供し、それをもとに遠隔支援を実施した

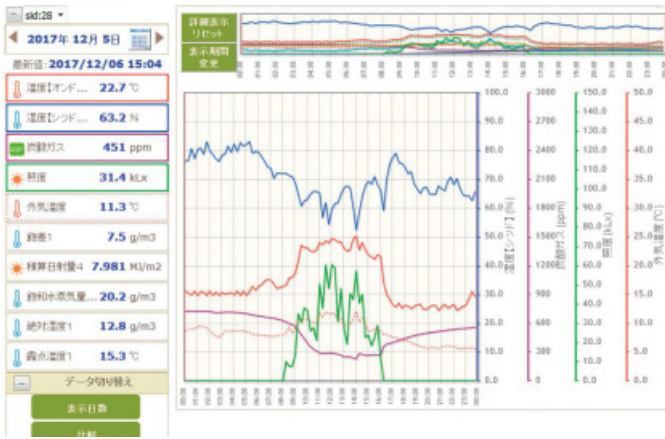


図-2 「アグリネット」の画面(例)

「アグリネット」(ネボン株)を活用し、環境制御クラウドによりハウス内外の環境を共有

後の準備および管理スケジュールの指導④パート人工の計算方法の指導などであり、これらについて、全農の支援担当者が現地に数日駐在して実施しスムーズな立ち上げを行うことができた。

### 生育情報、環境状況の共有

J Aの温室管理担当者と全農の支援担当者の双方が①写真などによるトマト生育状況および栽培情報②週次報告書による生育進捗(図-1)③環境制御クラウドによるハウス内外の環境状況(図-2)などの共有を徹底した。これによる、栽培状況・季節(気候・天候)・栽培ステージに応じた環境およびかん水制御の適切な切り替えなどについて、遠隔での栽培支援が可能となり、ミスの回避、収量の向上につながった。

### 支援担当者による毎月の定期訪問

J Aの温室管理担当者の技術向上、栽培上の疑問・不安点を解消するために、全農の支援担当者が月1回を目途に定期訪問し①現地栽培状況の確認②トマトの栽培ステージに応じた管理ポイントの指導③各テーマに沿った勉強会(i.栽培の基礎、ii.環境制御機、iii.根圏管理、iv.作業管理、v.オランダ人講師によるロックウール培地研修、vi.マルハナバチ使用方法)の開催④現地実績検討会への参画などを行った。

### 1作目で45t/10aの収量を達成

このような取り組みの結果、J Aあわじ島の最先端園芸施設では、温室管理担当者がトマト栽培の経験がなかったにもかかわらず、1作目で可販果収量45 t/10 aを達成した(図-3)。これは、「桃太郎」系品種における収量では日本のトップレベルの記録である。

【全農 生産資材部 園芸資材課】

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
反収目標(kg)	1,000	4,000	6,500	9,000	11,500	14,500	19,500	26,000	33,000	40,000	45,000
反収実績(kg)	972	4,362	7,492	10,388	12,286	16,318	22,955	31,032	39,035	44,501	45,309
月目標(kg)	1,000	3,000	2,500	2,500	2,500	3,000	5,000	6,500	7,000	7,000	5,000
月実績(kg)	972	3,390	3,130	2,896	1,898	4,032	6,637	8,077	8,003	5,469	805
周年対比	97.2%	109.1%	115.3%	115.4%	106.8%	112.5%	117.7%	119.4%	118.3%	111.3%	100.7%
月対比	97.2%	113.0%	125.2%	115.8%	75.9%	134.4%	132.7%	124.3%	114.3%	78.1%	

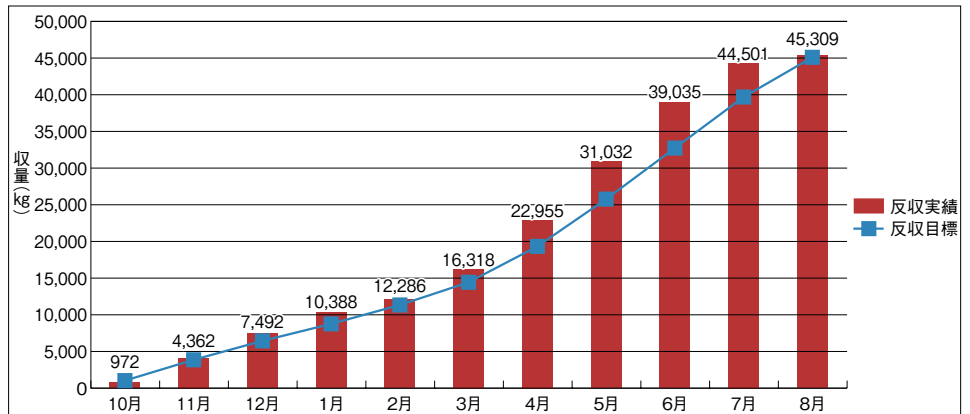


図-3 J Aあわじ島のトマト栽培施設における10 a当たり累計収量の推移

#### ●J Aあわじ島の最先端園芸施設の概要

施設仕様：軒高5.2m、ダブルフェンロー型

施設規模：栽培棟ハウス1,333㎡(栽培面積1,119㎡)

作業棟ハウス336㎡

栽培品目・品種：トマト「ハウス桃太郎」(タキイ種苗株)

栽培方式：ロックウール養液栽培

栽植密度：2.5本/㎡

栽培期間：定植日 平成28年9月、収穫期間 平成28年10月～平成29年8月



▲ハウス外観



▲ハウス内観



▲「ハウス桃太郎」栽培の様子